

＜実践発表＞ 旭進学園 宮崎第一中学校

新しいものさしで考える ～新聞を通して世界を学ぶ3年間～

発表者 教諭 緒田 浩輔

1 はじめに

(1) 学校の概要

本校は「健徳勇断美」を建学の精神とする私学の中高一貫校である。高校は文理科、普通科、国際マルチメディア科、電気科の4学科があり、創立68周年を迎える。平成6年に開校した中学校は1学年3クラスで、日南、都城、小林、日向市といった遠方からも多くの生徒が通っており、ほとんどが大学進学を目指し文理科へ進む。全体の7割以上の生徒が部活動に所属し、全国レベルの成績をあげる選手も出ている。

(2) 学校の目指す生徒の姿

建学の精神である「健徳勇断美」とは、「健康な身体と健全なる精神」「高い人徳と教養ある品性」「勇氣ある行動とたくましい根性」「正しく確かな判断力と実践」「優雅な心と優れた知性美」の5つを指し、これを体現する生徒の育成を目指している。日々の指導は、仲間や教員との絆を大切にし、自分らしい生き方を追求するとともに、周りを幸せにするための「人間力」を磨くことと、自分の夢を叶え、社会貢献ができる人材になるための「学力向上」を柱としている。

(3) 学校におけるこれまでのNIE活動

本校ではNIE実践指定校に認定される前から継続的に新聞を使った活動を行っている。11年前より「ハッピーニュース」という本をもとに「ハッピーノート」の作成を開始した。「ハッピーノート」とは、自分が興味を持った新聞記事の切り抜きをB4サイズの用紙に貼り、5W1Hをもとに要約、感想を書くといった取り組みであり、昨年度からはSDGsと関連させた。作成したものは生徒の目に触れるよう、掲示を行っている。また、宮崎日日新聞社より講師をお招きし、新聞を読むことの意味や発行までの過程を教えていただき、実際に新聞を作成するなど、学校での活動に深みを持たせることができた。現代は情報が溢れている。本校における「新しいものさし」とは、新聞を活用することによって、何が確かな情報なのかを見定める判断力を身に付けることを指す。

2 実践の内容

【実践1】帰りの会で身に付ける「新しいものさし」

(1) 全学年

「1分間スピーチ」

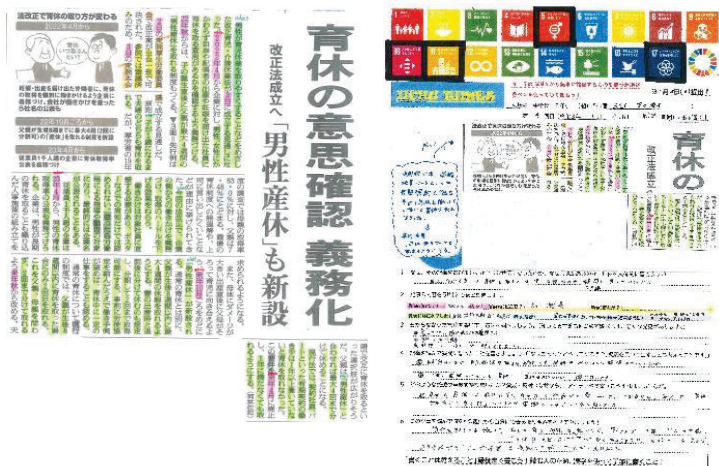
(2) 内容

関心のある新聞記事を探し、ハッピーノートを作成後、それをもとに帰りの会で毎日1人ずつ1分間スピーチを行う。3学年になると、200字帳をもとに自分の意見を論理的に表現する

ことを目指して、3分間のスピーチを行っている。ハッピーノートは10年以上前から続けているが、1分間スピーチは3年前より取り入れ、昨年からは、SDGsと関連した記事を選び様々な社会問題を自分ごととして捉えることを意識した発表を行っている。

(3) 成果と課題

スピーチを取り入れることで、他の生徒が選んだ多様な新聞記事を知る機会ができ、社会問題に対する関心が高くなった。また、分からない言葉を調べたり、発表原稿の表現を考えたりすることで、読解力や文章力の向上にもつながった。ただ、1日に1人しか発表できないため、全員の発表を聞くのに1か月以上かかってしまうという課題がある。



【実践2】英語科で身に付ける「新しいものさし」

「ハッピーノート」原稿

(1) 中学校3学年

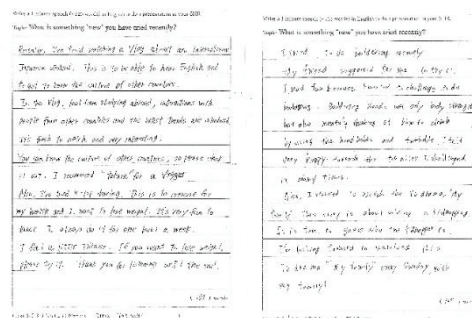
「N I E 3min speech」

(2) 内容

3学年では「ハッピーノート」をさらに発展させた取り組みとして、ワークシートに、新聞記事についての意見・感想を英作文し、英語でのスピーチに挑戦している。記事に対する自分の意見を整理し、英語で伝える力を養成することをねらいとした。

(3) 成果と課題

自分の言いたいことを英作文し、ネイティブの教員に添削してもらうことで、英語学習に主体的に取り組むことができたが、英語に対する苦手意識のある生徒にも意欲を持たせられるよう、親身な指導を行っていく必要があった。



発表原稿

【実践3】総合的な学習の時間に身に付ける「新しいものさし」

(1) 中学校1学年

「未来新聞をつくろう」

(2) 内容

1学年は総合学習「世界への探求」を通して、世界で起こっているさまざまな問題とその解決のために活動している人達のことを学んだ。そこから、自分の将来の展望を考え、それを新聞にする活動を行った。まず、初めに「新聞を知る」学習として、宮崎日日新聞社の方をお招きし、新聞記事の作成の仕方について講義していただいた。新聞の構成、見出しの書き方などの指導をしていただき、情報を効果的に伝える技術を学んだ後、将来自分がどうありたいかを

表現する「未来新聞」を作成し、掲示を行った。

(3) 成果と課題

「未来新聞」を作成する際、キャリア教育と結びつけ、将来就きたい職業を具体的に考える機会をつくることができた。新聞を作成することで、必要な情報を厳選し、簡潔にまとめることを学んだ。しかし初めは抽象的な表現が多く、新聞としてまとまりがなかった。読み手のことを意識し、どんな情報が必要かを考えてわかりやすく表現させるためには、教員が適切に助言する必要があるが、十分な時間を確保することが難しかった。



「未来新聞」

【実践4】総合的な学習の時間に身に付ける「新しいものさし」

(1) 中学校2学年

「SDG s 別に考える社会問題」

(2) 内容

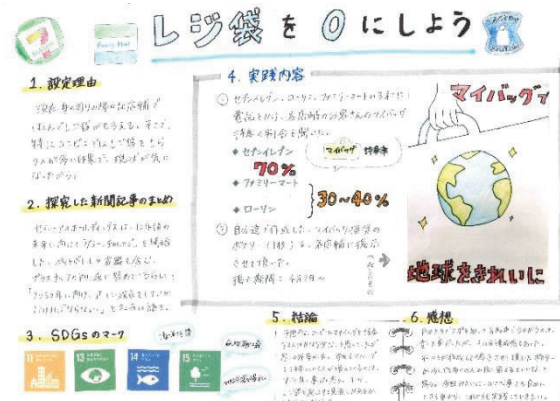
NIE実践指定校として提供を受けている5紙の新聞からSDG sの項目ごとに記事を選別し、スクラップブックの作成を行った。選んだ記事を通して社会の問題を自分ごととして捉え、その問題を解決するための計画を立て、実践を行った。自分たちの解決策が実現可能か、必要とされているかを考え実行することを目標とした。その実践報告としてポスターを作成し掲示を行った。

(3) 成果と課題

様々な新聞記事を読む機会が増え、SDG sの項目ごとにまとめることで、地域・世界で起こっている多くの問題を知り、その解決策について考えることができた。他の記事と関連づけて、多方面から問題を捉える生徒も出てきた。しかし、地域や身近な問題を選んだ生徒は計画を実行することができたものの、世界や日本という規模で対策を講じなければならない問題を選択した生徒は、自分が考えた計画を実行することが難しく、調べ学習で終わってしまっていた。



スクラップブックとタブレットを用いて計画を立てる生徒



実践報告（ポスター）

【実践5】学校行事で身に付ける「新しいものさし」

(1) 全学年

「シンブリオバトル」

(2) 内容

N I E活動に対する意欲をさらに高めようと、新聞の記事をいかに効果的に紹介するかを競う「シンブリオバトル」を開催した。SDG sに関する記事の中から自分が強く関心を持ったものを選び、問題を整理し、聴衆に訴えるという活動を通し、読解力・思考力・表現力を養成することをねらいとした。今年度は、各クラスでグループ編成をして、予選バトル、グループの代表で第2バトル、学年で行う第3バトルの末、各学年の代表3名ずつによる全校バトルを行い、チャンプ記事を決定した。

(3) 成果と課題

本来のシンブリオバトルは「どの記事が一番人に伝えたくなくなったか」を基準に採点を行うが、本校では生徒に、SDG sの視点にたつて、未来への展望や自分の意見を述べる力を身に付けさせたいと考え、独自に採点基準を定めた。生徒はその審査項目を意識して原稿の作成に取り組んだため、こちらのねらいに沿った活動にすることができた。他社の記事と比較することで、様々な視点から問題を指摘する生徒もいた反面、準備期間が短かったため、発表の内容が不十分な生徒も見られた。記事の背景を調べるなどして理解を深め、関心を高められるだけの十分な時間を設定する必要がある。



シンブリオバトルの様子



発表で使用了資料

3 まとめ

インターネットなどの情報が溢れる現代では、何が確かな情報なのかを見定めなくてはならない。その判断材料として新聞を活用することが習慣になることを願っている。3年間のN I E活動を通して、情報を取り入れ、自分の考えを深め、伝えるための能力を養成するとともに、生徒が「新しいものさし」を身に付けることを目指している。正解のない問題への対処が求められる時代だからこそ、自分の頭で考える力を鍛えていきたい。